

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年1月8日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2779101589
法人名	特定非営利活動法人 訪問介護ほぐち
事業所名	グループホームまつひろ
所在地	大阪市淀川区三津屋南2-18-5 (電話) 06-6303-4530

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 12月 15日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (147,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (147,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (平成 20年 12月 8日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	71歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤本医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特定非営利活動法人が訪問介護と居宅介護支援センターと共に運営しているグループホームです。住宅街の中にある社宅を改装して設立し、2階建てで1ユニット9名が暮らしています。管理者は長年、福祉の現場で活躍され認知症に対する理解も深く、社会に貢献したいという思いからグループホームを運営しています。家庭的で温かみのあるホームを目指し、食事は3食共ホーム内で調理し、利用者も一緒に参加して味付けにこだわり喜ばれています。また利用者の好みを聞いて自由に変更しています。階段には昇降機が設置され、足腰の不自由な利用者にも重宝されています。また、居室にはトイレ、洗面所、クローゼットが設置しており、使いやすく清潔に保たれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価結果については、改善に向けて順次取り組んでいます。市町村との連携については運営推進会議への参加を得ており、職員を育てる取り組みについては研修の申し込み等積極的に勧めています。利用者の生活歴の把握についても聞き取りに努めています。外部評価結果については玄関に掲示しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価の各項目を一人で行い、全員では取り組めていない状況です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の規定を定めています。会議は2ヶ月に1回開催し、運営状況や行事予定、日常生活の報告を行っています。会議記録も残しています。参加者は町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、管理者です。委員からの発案で、ボランティアを呼びかけてもらい、近隣公園への遠足や行事に参加の協力を得ています。また、地域包括支援センターからも地域ボランティアの要請についてお願いしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月1回『まつひろ便り』を発行しています。行事の様子を写真に撮りコメントを付けて家族へ送付しています。家族の面会時には、利用者一人ひとりに健康面や生活状況の報告を行っています。また、請求書と共に行事予定など、細かな報告をして家族の安心を得ています。預かり金はなく立替え払いをしています。必要な品は事前に連絡し家族に了承を得ています。意見や苦情の申し出先を玄関に明記し、苦情箱も設置しています。苦情等について家族から申し入れがあった場合には、管理者や職員が集まって話し合い、すぐに対応するよう努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し、管理者は班長を務めるなど、地域の一員として活動しています。自治会の定例会議にも参加して、自治会行事の清掃、年末夜警等にも参加しています。食材等の買い物は、地域の商店を利用しています。ホーム行事である遠足には地域のボランティアの参加や協力があります。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の安全を守り、安心できる暮らしを提供する」をホーム独自の理念と定め、住み慣れた地域で、その人らしく穏やかな生活を送って頂ける様努めています。現在、パンフレットなどにも掲載することを検討しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はわかりやすく明記し、玄関に掲示して職員間で共有しています。また管理者、職員は、会議の際も理念について話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域の自治会に加入し、管理者は班長を努めるなど、地域の一員として活動しています。自治会の定例会議にも参加して、自治会行事の清掃、廃品回収、年末夜警等にも参加しています。また食材等の買い物は地域の商店を利用しています。ホーム行事である遠足には、地域のボランティアの参加や協力があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価を一人で行い、職員全員では取り組めていません。前回の評価結果については、改善に向けて順次取り組んでいます。具体的には行政との連携について、運営推進会議への参加を得ています。職員を育てる取り組みについても、研修の申し込み等積極的に勧めています。利用者の生活歴の把握については聞き取りに努めています。外部評価結果については玄関に掲示しています。	○	自己評価については管理者のみならず、職員も参加して、評価の認識の共有化を図る取り組みが求められます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定を定めています。会議は2ヶ月に1回開催し、運営状況や行事、日常生活の報告を行い、記録も残しています。参加者は町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、管理者です。委員からの発案でボランティアを呼びかけてもらい、車椅子で近くの公園への遠足や行事に参加できるよう協力を得ています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・区の担当者とは連絡を取り合っています。区福祉課のケースワーカーは、6ヶ月に1度ホームを訪問し、利用者の話を聞いたりしています。また、運営推進会議への参加、地域ボランティアの要請についてもお願いしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回『まつひろ便り』を発行しています。行事の様子を写真に撮り、コメントを付けて送り、家族から喜ばれています。家族の面会時には、利用者一人ひとりの健康面や生活状況の報告をしています。また、請求書と共に行事予定など、細かな報告を行い家族の安心を得ています。預かり金はなく、立替え払いをしています。必要な品を購入する際は事前に連絡し、家族に了承を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情の申し出先を玄関に明記し、苦情箱も設置しています。苦情等について、家族から申し入れがあった場合には、管理者や職員が集まって話し合い、すぐに対応するよう努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるように努めています。離職者があり対応に苦慮しています。新人職員が入る時は、グループホームについての理解を促がしスムーズにホームへなじめるようにしています。職員の異動時には「おたより」にて報告を行い、家族の訪問時にも紹介しています。認知症の利用者にとってなじみの関係は大切なことであり、今後も異動を最小限にすることが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修情報を職員に提供し、参加しやすい体制を整えています。「感染症」「緊急時対応」の研修を行っています。「認知症」の研修についても参加を予定しています。職員採用時にはマニュアルを用いて研修を行っています。今後は年間計画をたてて研修を実施していくことが望まれます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淀川区グループホーム連絡会に参加しています。そこで得た情報や意見をホーム内で活かせるよう取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに見学の機会を設けています。また病院や施設、自宅にも管理者が出向き面接を行っています。その際には空室状況等についても説明しています。また、空き部屋があるときは、3日間程度のお試し利用期間を設けてホームへスムーズに馴染めるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに過ごすことを前提とし、さりげなく声かけや手助けをしています。利用者は職員の仕事ぶりや仕事内容を理解し観察されています。疲れた表情を見せると労いの言葉を掛けたり、優しい表情を見てくれたりするなど、利用者は人生の先輩として学ぶべきことが多いと職員は感じています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	書面上に記録するだけでなく、利用者と共に過ごしていく中でそれぞれの思いや意向を汲み取るよう努力しています。整理整頓の好きな方には、自分で季節の洋服の整理をしてもらうなど支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでは情報交換ノートを基に職員全員で意見を出し合い、利用者・家族の意向も取り入れて計画に反映させるようにしています。	○	必要に応じて話し合いを行っていますが、今後は話し合った記録や参加者を書面に残すことが求められます。また今後は更に書類を整理していくことが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1年に1回見直しを行っています。アセスメント記録、モニタリング記録、見直しを行った介護計画は残していますが、カンファレンスを行ったという記録がありませんでした。	○	介護計画は6ヶ月に1回、また状態の変化があるときはその都度見直しを行うことが求められます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況や家族の要請に応じて通院支援や入退院の支援を行っています。丁寧に相談に乗ってもらえる医師も確保しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて近隣の内科医による往診があります。また利用者や家族の希望で、かかりつけ医に受診できるよう対応しています。急変時や夜間対応についても対応できるよう体制を整備しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応を家族と話し合っています。家族や利用者からホーム内での看取りの希望もあります。これまでに終末期の利用者を支援した経験もあり、職員全員で方針を共有しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが、プライバシーに関する意識の向上を図るように心がけています。また、日々の介護場面でも利用者を尊重した対応を心がけています。個人情報保護について、職員からの署名を得ています。個人記録等は利用者の目に触れないよう保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、急かすことなく支援しています。ゆっくりと食事を摂る方の横にさりげなく職員がつき声をかけたり、利用者一人ひとりのペースを見守ったりしています。事業所としての日課はありますが、利用者の意向に合わせて支援し、見守ることにしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食ホーム内で調理しています。食材は近所の商店より届けてもらっています。献立は希望を聞いてみんなで考えています。嚥下の困難な方等、常に食事介助の必要な方にもさりげなく支援しています。職員は利用者と同じ物を一緒に食べています。またおやつを一緒に作ったり、買い物にも一緒に出かけたりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週1回から2回、くつろいで入浴していただいています。入浴日でないときは、足浴を実施しています。	○	週3回の入浴や、要望に合わせて毎日入浴できるように、体制を整えられることが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりに今何がしたいか希望を聞いて取り組んでいます。洗濯物をたたみや好きな歌手のビデオやカラオケを楽しむ方もおられます。また、ぬり絵や折り紙、貼り絵を楽しんだり、掃除の好きな方はモップがけの手伝いやクローゼットの片付けをしたりする等、職員と一緒に楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物や散歩、かかりつけ医療機関への受診、家族との外食、近くの公園への散歩やお花見など、毎日外出する方や週1回の方と様々ですが、希望があればいつでも外出できます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関の鍵は施錠していますが、内側からは自由に開けることができます。利用者が外出したいときは見守り支援を行っています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成して、避難訓練や災害時の対応を確認しています。年に2回消防訓練を行っており、そのうちの1回は消防署の協力を得ています。水や食料品の備蓄についてはおおよそ確保しています。非常用の備蓄については、年に1回程度の点検を行いつつ使用してはいかがでしょうか。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を把握しています。旬の野菜を中心にバランス良く献立を立て、利用者の体調に配慮した食事量も考えています。時々専門家の意見を聞いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. の人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、台所、浴室、廊下、トイレなどはバリアフリーで清潔感があり、階段には昇降機が設置されています。居間には観葉植物が置かれ、利用者の作品やお知らせ等も掲示されています。また不快な音や光等はなく家庭的な雰囲気です。リビングには天気予報のカレンダーがかけられ、利用者は当番制でその日の天気を記入して楽しまれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレ、洗面所、クローゼットが設置され、自宅から持ち込んだテレビ、机、タンス、写真、時計などを思い思いに配置しています。テレビを持って来ていない方は、友人の部屋で一緒に見せてもらうなど交流しています。独居の方で病院から入居の場合は、馴染みの品が少ないこともありますが、ホームで作成した品や写真等で居室を飾っています。		